

第1回地区懇談会（藤沢第一地区）の概要	
日 時	平成29年8月1日（火）午後7時～午後9時
場 所	藤沢公民館
出席委員	井上雅子委員 木下英次委員 齋藤勝久委員 齋藤熊平委員 永松憲一委員 藤岡直一郎委員 宮原久助委員 山口敏郎委員 横田敦委員
欠席委員	梅山正一委員 串田俊介委員 柳田淳志委員
傍聴者	7名
<p>○委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域区分について、福祉圏域では、東町5丁目及び6丁目の一部は藤沢第一地区となっているので、留意いただきたい。 ・公共施設マネジメントでは、施設同士を統廃合、複合化して縮減する方向だが、施設を減らす以外の方法（別の手段）はないのか。 <p>→これからの人口減少、少子化、高齢化を踏まえると、市として様々な方策を講じる必要がある。このうち、公共施設については、平成26年度にまとめた公共施設マネジメント白書の推計で、現在の施設数をこのまま維持していくことは難しいという結果が出ている。従って、施設についても全体では、減らさざるを得ない。ただし、施設で提供しているサービスは維持していきたいと考えるため、集約した施設は、機能やサービスの充実を図っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の高齢化の進展を考えると、市内に100～200m間隔で、施設を配置しないと通えなくなるのではないか。 <p>→他の地区では、空き家の活用という課題（意見）が出ているので、公共施設マネジメントという視点だけでなく、地域づくりというテーマの中で、今後、検討していく内容になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢第一地区の西側にも、4月からバス路線が設定された。事業計画の地区特性の部分に反映願いたい。 ・市が取り組んでいる課題は、全国で同じ状況だと考える。入間市としてどうしていくべきか、良い点は伸ばし、不便な点は皆で考えるといった地域独自の方向性を示すことが必要ではないか。 ・市民に100%満足してもらうことは、大変なことだと思う。藤沢地区は、かつて市内でも貧乏な集落であった。学校には、給食がなく、プールもなかった。宅地開発も豊岡に比べ遅れていた。しかし、武蔵藤沢駅へのアクセスの良さもあり、近年、急速に宅地開発や商業店舗の出店があり、まちの発展につながっている。 ・不老川をきれいにすることは、次世代に引き継いでいきたい。これは、地域特性として、頭の隅において欲しい。 ・不老川は、時として暴れることもあるが、こうした点も含めて愛着をもって欲しい。 	

・将来を見据えると、子どもや子育て環境は大事だと思う。現役世代は共働きで、忙しいと思う。子育てについては、地域の退職組がサポートする仕組みができると、お互いの交流にもつながり良いと思う。

→公共施設に求められる役割を検討する上で、参考にしたい。

- ・地域のイベント（運動会・夏祭りなど）には、多くの30～40代が参加している。一方、公民館で行われているサークル活動などには、この世代は少ない。活動内容が分かり、子どもを預けられれば、参加者も増えるのではないか。
- ・これからの公共施設のあり方として、まち中にあるコンビニエンスストアや西武鉄道の駅など民間とコラボレーションするのはどうか。このような施設は、立地的に便利な場所にある。
- ・地区内には、様々な公共施設や店舗がある。こうした生活圏をつなぐ（巡回する）交通手段があると良いのではないか。
- ・藤沢南小学校や上藤沢中学校は、藤沢第一地区にある。配布された資料では、藤沢第二地区に記載されているようであるが、藤沢地区の通学区は入り組んでいるため、両地区を合わせて総合的に検討する必要があるのではないか。
- ・「高齢者」という言い方は、悪者扱いされているようで、好かない。公民館は、人々の交流の場であり、利用しない人も多いようだが、施設数を減らすことはやめた方が良い。
- ・公民館の駐車場は、大きい方が良いが、増やしても拡張要望は出ると思う。他の公共施設（例：公民館と地区体育館）と連携して、考えていくことも大事である。
- ・入間市が取り組んでいる小中一貫校という考え方は良いと思う。この効果が引き出せることに配慮し、再配置していくことが大事である。公共施設マネジメントの取組は、複雑に入り組んだものを再整理するチャンスと捉えても良いと思う。
- ・これまで、我々は行政に頼り過ぎている面がある。地域の課題は地域で解決していくという姿勢が大事である。退職し、日中、時間のある方には、是非地域活動に関わっていただくとともに、行政とタイアップして取り組むことも大事である。地域と行政が連携して動ける仕組みができれば良いが、この仕組みづくりが難しい。
- ・飯田市では、地域の拠点に自治振興センターを設置し、地域のワンストップ窓口を形成している。違う分野の人達が、一箇所に会し机を並べることで、多種多様な情報交換ができ、地域の活性化につながっていると思う。

[参考]飯田市 自治振興センター（各地域に配置）で扱っている手続き

《届出》

- ・出生届、死亡届、婚姻届、離婚届、養子縁組届など戸籍の届出
- ・転入、転出、転居の届出

《証明書の取得》

- ・戸籍謄（抄）本、住民票の発行
- ・印鑑登録と、印鑑証明の発行
- ・所得証明、納税証明、軽自動車納税証明の発行

《税金や料金の支払い》

- ・税金の納入
- ・保険料の納入
- ・水道料金の納入

《諸手続き》

- ・年金の現況届、年金を受けるときの手続き
- ・福祉医療や高額医療の請求手続き
- ・身体障害者手帳の交付手続き
- ・介護保険の要介護認定申請手続き
- ・母子手帳の交付手続き
- ・火葬や埋葬の手続き
- ・水道の開栓・閉栓、使用者変更の手続き

- ・藤沢地区は、豊岡地区よりも自治会が機能しているように感じる。自治会活動で、若い世代と年配の世代の交流につながっているが、最近、勢いが低下しているように感じ残念である。
- ・藤沢地区は、通学区が複雑なので、再編が必要である。
- ・公共施設マネジメントでは、例えば、地区体育館や公民館と小学校の場所を入れ替えるということは考えられるのか。
→ニーズにより考えられる。
- ・ズバリ、市の寿命はどれくらいと考えているか。公共施設マネジメント（施設の再配置）を越えて、自治体間の合併は考えられるのか。
- ・災害対応について、どのように考えているのか。
→公共施設は、災害時、避難所などになることを想定して、備える機能や地区内での配置を検討していくことになる。こうした点についても、地区懇談会で意見をいただきたい。
- ・地区懇談会の委員の多くは、年配者である。30年先の将来を考える機会なので、

若年層からの意見も聞いたらどうか。

- ・東日本大震災の復興において、中学生、高校生から意見を聞いてまちづくりを進めた自治体があるという。入間市でも取り組んでみたらどうか。

第2回地区懇談会（藤沢第一地区）の概要	
日 時	平成29年8月19日（金）午後7時～午後9時
場 所	藤の台公民館
出席委員	井上雅子委員 木下英次委員 齋藤勝久委員 齋藤熊平委員 永松憲一委員 藤岡直一郎委員 宮原久助委員 山口敏郎委員 柳田淳志委員
欠席委員	梅山正一委員 串田俊介委員 横田敦委員
傍聴者	9名
<p>○委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢小学校の通学区には、豊岡地区の扇町屋団地や大字黒須、東金子も含まれているようだ。通学区が地区を跨いで複雑に入り組んでいる。 →地区内の学校の配置が決まった際は、通学区の見直しが必要となる。 ・藤沢地区体育館の2階にある卓球場については、暑くても窓を開けることができない。防犯上の問題だと管理人が言っているが、何とかならないのか。 ・小中一貫教育を目指すのであれば、学校の再配置を考える前に、「小中の連携」という明確なテーマを掲げるべきではないか。また、施設規模は、それに見合ったものに見直す。 ・藤沢小学校と藤沢中学校は、既に小中の連携が図られている。 ・市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で「元気な子どもが育つまち」を掲げている。学校整備は、これをどのように具体化していくということが、ポイントではないか。 ・学校の統廃合により、距離が遠くなる児童が増える。現在、狭山市境から通う児童もいるため、学校の統廃合と合わせて何らかの配慮が必要である。 →他の地区でも意見があったが、スクールバスの検討も必要と考えている。 ・学校の再編に伴い、安全な通学路の確保も課題ではないか。 ・現在、藤沢地区は2地区に分かれて話し合いを行っているが、藤沢地区全体で話し合いたい。その中で、通学に適した広さ（大きさ）について、実情を踏まえて話し合いたい。 ・人口減少対策について聞きたい。 →まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明。次回、パンフレットを配布する。 ・保育所を統合するのであれば、武蔵藤沢駅前に移転してはどうか。 →藤沢地区は、年少人口の減少が他の地区と比較して緩やかであり、2箇所ある保育所も比較的新しいため、当面は2施設体制とし、民間施設の動向にも配慮して、統廃合を検討したい。 ・事業計画（素案）では、藤沢地区に小学校2校となっているが、1施設ずつの規模を小さくして、3校以上とする考えはないか。この方が、通学の面では良い。 	

・公共施設の再整備・再配置は、将来、人口減少や人口構成の変化により歳入が減る
というのを強調しなくて良いのか。

→この点については、説明会でもお示した通りで、ご発言のとおりである。

常にこの取組の主旨を見つめる必要がある。

- ・今後、人口や歳入が減少すれば、狭山市との合併もありうるのではないか。
- ・藤沢地区は、あえて2地区に分けずに公共施設の配置を考えても良いのではないか。
また、小中一貫の先を見据え、学校は9年制にしても良いのではないか。
- ・藤沢第1地区の公民館は、藤沢公民館（地区センター）に統合する案が示されたが、
これは、稼働率を考慮したものか。

→既存施設の規模、機能に加えて災害復旧拠点としての配置バランスなども考慮して
いる。

・地区懇談会の意見は、どのように扱われるのか。

→計画は、委員意見による実情を踏まえて最終的に市（事務局）がまとめる。

- ・この計画をまとめるのは大変なことだと思う。ただし、市政の実態を踏まえると、
市の責任で進めなければならないことも理解できる。
- ・住宅を販売する際、小学校やスーパーマーケットまでの距離を記載する広告をよく
目にする。この標記で住もうと思う人もいる。施設の統廃合には、こうした点にも
配慮が必要ではないか。
- ・教育環境や水準を考えると、まとめる（統合）ことが、良いのか。メリット・デメ
リットを考える必要があるのではないか。
- ・通学区の編成は、机上でやるべきではない。是非、現場を見て再編して欲しい。
- ・地区体育館は、現状維持となっているようだが、グラウンドを含めて広い土地であ
るため、有効活用について検討すべきではないか。
- ・公園にも、防災機能を付加したらどうか。
- ・事務局から提示のあった児童・生徒数の推移を見ると、それぞれまとめることはで
きると思う。
- ・通学距離が短くても、子どもの連れ去りや交通事故は起こると思う。一方、スクー
ルバスが用意されるのであれば、より安心である。
- ・公民館に和室が要らないという人も多いが、避難所として使うことを想定すると、
必要ではないか。
- ・体育館は、誰でも容易に利用できるよう工夫して欲しい。
- ・意見交換をされていて、公共施設の配置と学校の通学区は、切り離さないと考えにく
いことが分かった。
- ・市が別途進めている市民会館、市役所、産業文化センターの整備について、詳しく
話を聞きたい。

→次回以降、説明したい。

第3回地区懇談会（藤沢第一地区・藤沢第二地区）の概要	
日 時	平成29年9月26日（火）午後7時～午後9時
場 所	藤沢公民館
出席委員	井上雅子委員 梅山正一委員 木下英次委員 串田俊介委員 齋藤勝久委員 齋藤熊平委員 永松憲一委員 藤岡直一郎委員 宮原久助委員 柳田淳志委員 山口敏郎委員 横田敦委員
欠席委員	なし
出席委員	臼井秀委員 喜入康文委員 齋木宏之委員 関谷善徳委員 羽鳥貞夫委員 松下庄一委員
欠席委員	青木友史委員 阿部征雄委員 後田博文委員 小山輝久委員 佐藤トク子委員
傍聴者	5名
<p>○委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東藤沢小学校には、東藤沢3丁目から8丁目の児童が通っている。中学校は、西武鉄道の線路を境に分かれてしまい、同じ小学校に通っていた児童が中学になると2つある中学校に分かれてしまう。事務局が示した上藤沢中学校を現地より東側の土地（藤沢南小学校を想定）に移れば、上手くいきそうに感じる。中学校で分かれることがない方が良いと思う。 ・学区について、現在、藤沢第1地区は、藤沢中学校と向原中学校に分かれているが、小中一貫教育を行うのであれば、中学校はどちらか1つにした方が良い。ただし、地区として、分けた方が良いという意見も聞いている。 <p>→児童・生徒数を意識して学校の再編成を行っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の再編には、児童・生徒の意見を聞くことも必要ではないか。 ・老人憩いの家は、バリアフリー化がなされていない施設もある。自治会に譲渡する際は、バリアフリー化して欲しい。階段はきつい。 <p>→施設の取扱いについては、実情を踏まえて検討したい。なお、地区センターにも地域の方が憩う場所にしたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備を行う上では、距離の問題もあるが、不便にならないよう配慮して欲しい。 ・小学生（特に低学年）にとって、4kmは遠い。学校数を維持してサテライト化するというのはいかがでしょうか。先生方が各校を移動すれば、うまく機能するのではないか。 <p>→学校の再整備については、文部科学省も力を入れており、動向を見ていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活において、全てが藤沢地区内で収まれば良いと思う。第1地区、第2地区を便宜上分けているようだが、学区や自治会の区割りなどを制限するものではないため、抵抗はない。 ・人口ビジョンを踏まえると、公共施設の集約により人口減少にさらに影響しないか懸念がある。 	

- ・広域対応施設については、市の中心部に建設する必要はないのではないか。施設は、種類ごとに集約した方が良いものと分散した方が良いものがある。
 - ・自治会館は、地元住民用で利用率が低い。公民館は、部屋が空いている時間自由に使って、集会などできると良い。今後、自治会館を地元が持ちこたえられなくなる懸念がある。公民館と自治会館、老人憩いの家を整理すれば、上手くいく。
 - ・せつかく近くに東京家政大学があるので、一緒にまちづくりや人口減少など（学生の定住なども含めて）に取り組んではどうか。
 - ・地域の集会所は、なるべく身近にあって欲しい。また、藤沢地区の交通網について、地元で考える機会ができると良い。
 - ・上藤沢中学校の評判は良い。移転や複合化などで、環境が変わった場合、影響が出なければ良いと考えている。子ども達のためにお金を使うことは良いことだと思う。大人の考えだけで、方向性を判断すべきではない。
- 教育環境の充実は、目標になると考える。
- ・藤沢地区の小中学校は、連携が図れていて良い。さらに、中学校同士の連携も図れている。学校の統廃合と学校区の話は別だと思う。
 - ・学校については、学校区という考え方から、住民が自由に選択できるセレクト性にしたらどうか。
- セレクト制の場合、次年度以降の児童・生徒数を把握することができない可能性がある。このことで、教員の数が変わる可能性がある。
- ・計画を策定する上で、入間市の20年後、30年後は何を目標としているのか明示しておくが良い。
 - ・公共施設マネジメントについても、自然体または地域のビジョンがあって、取組を進めた方が良いと思う。
 - ・施設ごとに、利用者間で施設のあり方を考える機会があると良い。また、行政も、住民や利用者の実情を聞くと良い。
- 公共施設マネジメントについては、現在、地域の実情を聞いて、30年間の大きな枠組みを作っている状況である。こういう機会は、今後も必要だと感じている。

第4回地区懇談会（藤沢第一地区・藤沢第二地区）の概要	
日 時	平成29年10月18日（水）午後7時～午後9時
場 所	健康福祉センター
出席委員①	井上雅子委員 木下英次委員 齋藤勝久委員 齋藤熊平委員 永松憲一委員 藤岡直一郎委員 宮原久助委員 柳田淳志委員 山口敏郎委員 横田敦委員
欠席委員①	梅山正一委員 串田俊介委員
出席委員②	阿部征雄委員 後田博文委員 臼井秀委員 小山輝久委員 齋木宏之委員 羽鳥貞夫委員 松下庄一委員
欠席委員②	青木友史委員 喜入康文委員 佐藤トク子委員 関谷善徳委員
傍聴者	6名
<p>○委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢地区は2地区に分けないで、1つで公共施設の再配置を考えて欲しい。公民館は地区センター化で良いと思う。課題としては、駐車場の問題があると説明があったが、藤沢公民館は現在、100台以上駐車可能であり、現状で問題ないと思う。藤沢地区の中心にあり、利便性を考えても良いのではないかと思う。 ・藤沢地区には、公民館が3箇所ある。東藤沢地区のうち、国道463号（行政道路）の東側の地域（1丁目と2丁目）は、3丁目以降と分けして、藤沢第一地区に入っている。敬老会の行事を開催するとき1丁目と2丁目（一部大字下藤沢も混じっている）の住民は、藤沢公民館が割り当てられ、市のバスを借りて送り迎えをしてもらっている。1丁目と2丁目の住民については、より身近な東藤沢公民館を利用してもらった方が良いのではないかと考えるので、今後区分を検討して欲しい。 ・10年以上前に長野県諏訪市へ行った際、複合施設の中に支所機能、介護保険機能が存在し、保健師が配置され健康相談ができるようであった。この施設へ来れば、日常生活に必要なことがある程度でき、複数の施設を回らなくても済む。この事例のように、必要な機能を充実させないと、地区の拠点としては機能不足である。 <p>→1回目の藤沢第一地区の懇談会で、長野県飯田市の事例として、自治振興センターを紹介してもらった。その施設に行けば、手続き等が一通りできる。現時点で考えている地区センターは、公民館の機能に加え、支所機能、自治振興支援機能、福祉の相談窓口、地域包括支援センターを複合化したいと提案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢地区内には、公民館が3箇所あって、全部の施設に支所機能を配置することは難しいと思う。建物が3箇所残るのであれば、市の職員が巡回するような形式で、住民を動かすのではなく、IT技術の活用や職員が現場に出ていくという考え方に切り替えると自由度が広がっていくのではないか。福祉の問題を考える際、社会福祉協議会と地区センターという組合せで、住民が揃って話をする（コミュニケーション）という視点は大事である。そういう意味で飯田市事例を提示した。この事例 	

のように、運用において配慮すれば、より充実したサービスが提供できるのではないか。

- ・東藤沢地区の地域包括支援センターは、東藤沢1丁目2丁目まで対象にしている。藤沢の地域包括支援センターと比べると、区割りが違っている。そこも含めて今後考えてもらいたい。

→地区センターを市内9箇所に展開していく中で、地区センター化しない施設（公民館）も出てくるが、地域の方に活用してもらう施設として残していく考え方である。地区センター化しない施設についても、単なる部屋貸し機能だけではなく、地区センターに配置された職員が、施設（場所）を活用して、社会教育事業をするということは考えられる。

- ・東藤沢公民館は、出張所であるため、支所と比較するとサービスの範囲が狭い。支所機能が入れば、住民の利便性が高まる。

→地区センターでは、本庁と同一のサービスを提供できるように考えていきたい。IT化も含めて、コンビニエンスストアの活用もあわせて考えていく。

- ・図書館分館は地区センターから分離して小学校と複合化する案だが、小学校とした理由を聞きたい。藤沢公民館にある図書館分館はとても便利である。小学校へ移した際の不便さは分からないが、土・日曜日使えないのではないかとと思うと地区センター内の方が良いのではないか。地区センターに配置する機能にもよるが、現在の藤沢支所には、豊岡地区の住民も来る。本庁舎では手続きに時間がかかるため、少し遠くても藤沢地区に足を運んでいるようだ。地区センターの機能を良く考えるべきだ。

→小学校を選択した理由は2つある。1つは、小学校の図書室の充実が図れないという課題がある。司書は先生が兼任しているが、図書が中々購入できないため、一時的に図書館本館から貸し出しを行っている。金子・藤沢・西武地区は、図書館分館が整備されているが、全地区には配置されていないため、以前から公民館に図書館分館機能を配置していく構想があったがスペース等の問題もあってできていない。それを一体的に考えて小学校に整備していくのが良いのではないかというのが今の案である。

- ・図書館分館は、中学校へ複合化するというのはどうか。利用面を考えると中学校の方が良いのではないか。

→小学校は図書館分館だけではなく、学童保育室や地域交流スペースなど、他にもいくつかの機能を複合化していこうと考えている。児童に対する安全面の問題も考えなくてはならないが、建替えのタイミングで同じ敷地内に別棟で建設すれば要件を満たすことができる。中学校の場合は、部活動のこともあって、グラウンドや体育館を含めると、生徒が利用している時間が長いということに配慮した。こうした状況から、複合化については小学校の方が良いと考えている。

- ・統廃合で藤沢南小学校がなくなり藤沢東小学校に統合するということだが、30年後の児童数が鍵になる。配置は現在のままで、校舎（施設）を縮小すれば良いのではないかと思った。例えば、3棟ある校舎の1つを除却し、学校敷地は維持して統合しないのはどうか。
- 他の地区では、校舎の縮小案というのはなかったが、小学校と中学校を統合するという案や、サテライト（分校）化といった案も出ている。子どもの通学距離の問題はあるが、経費の問題もあり、残す学校を充実するためにも、施設数を縮減する必要がある。統廃合を検討する際は、いくつかの手法を比較検討していきたい。
- ・藤沢東小学校の校長先生と話をしたところ、創立が昭和51年で、現在、42年経過しているということであった。校舎を維持していくためには長寿命化工事が必要である。建物を評価する際、トイレが重要なポイントになる。トイレが古い、きたない、臭うというのが現実問題としてあり、真っ先に改善に取り組んで欲しい。以前からエアコンの問題があったが、今年10月に取り付けてもらい皆が喜んでいる。雨漏りなどの基本的な事項も改善しながら、1つずつ進めて欲しい。一般家庭のトイレは様式であるため、子ども達は和式トイレにギャップがあると思う。
- トイレの課題は十分認識している。未だ多くの学校の改修ができていない。1棟の1系統を改修するだけで約6,000万円の費用がかかる。学校は、小中合わせて27校あるので、毎年かけられる経費にも限度がある。
- ・3回目の地区懇談会が終わった後、安川通りから、国道463号バイパス、向原中学校を通過して、藤沢小学校まで歩いてみた。教育委員会が数年前から小中一貫教育を先駆けて実施しているが、小中一貫教育をこれからも進めるのであれば、学校区を無くして地域で分けるという方法も考えられる。懇談会では、20年後、30年後のことを話しているが、可能であれば中学生や高校生といった若い世代を入れて議論をしてもらいたい。
- 他の地区でも同様の意見をもらっているので今後考えていきたい。
- ・学校を複合化すると、様々な人たちが出入りをするようになる。近年、色々な事件がある中で、安全面に十分な配慮をしていただきたい。現代の子どもたちは、公園で球技や大声を出すこと等の制約を受けて遊んでおり、可哀想である。学校には、広い校庭があるので、地域の人たちが利用できる方法を考えていった方が良い。
- 複合化で、一番の課題は安全面である。先行事例は増えてきているので、参考にし、安全な方法でサービス提供できるようにしていきたい。
- ・下校した後で、子ども達が校庭で遊ぶということは少ない。中学生が小学校の校庭を利用してバスケットボール等をしているのは見たことがある。地域の公園を管理している立場からすると、近所の公園は、草が生い茂っているが、地域住民が管理をしきれなくなっている。自治会内に3箇所公園が存在するが、このうち1つの公園はほとんど利用されていない。しかし、自治会としては管理しなくては

ならない。都市計画課にお願いして草刈をやっていただいている。自治会では管理に苦慮している。公園の状況も把握してもらいたい。

→公共施設マネジメントの中に公園は含まれていない。その課題については担当部署に伝え検討してもらおう。

・統合ありきで話が進んできたが、縮小することもいいのかなと思った。学校を地区センター化して、公民館機能を学校にもってこることで拠点化される。現在、我々が議論している内容は、50年後もまた同じ話をしていると思う。小学校もいずれは建て替える必要があり、他の施設も同じような状況である。それを考えるのであれば、費用は度外視して1つの拠点にしてしまった方がよい。統合とか学校区の内容で校長先生などの意見は聞いたことはあるのか。

→公共施設マネジメントの取組については、これまで、校長先生に説明している。一人ずつヒアリングしたことはないが、それぞれの先生方で意見は違うと思う。いただいた意見の中には、少ない中学校について統合はやむを得ないという意見が多かった。ただ、小学校については児童・生徒数が少なくなっても、ある程度今の配置を維持していきたいという意見が多い。学校区については、あまり意見はなかった。

・毎回、学校の問題が出るが、15年後は市内全体で、1校分生徒が減るイメージであり、さらに50年後には市の人口が9万人になることも考えられる。そうすると、小学校・中学校1校しかもてない市の財政状況になることも考えられる。30年後、40年後どうなるかの話をした方がよい。地区懇談会で、色々意見が出るのは良いが、現在の話をして意味がない。20代30代の人に参加してもらい議論した方がよい意見が出ると思う。

→30年間の計画を立てるにあたり、30年間の市全体の児童・生徒数の推移もあるが、地区によってバラつきもある。形式は決まっていないが、若い世代の意見を聞く機会をつくっていきたい。

・今の学校の配置は、40年、50年前に考えられたものだと思う。急激に人口が増加し、無理して建設した面もある。統廃合ありきではなくて、30年先の人口のビジョンを考えるとともに、さらに先を見据えた施設のあり方を考えていかないとけない。2つの学校の中心に新しい学校を建設しようという考え方もある。市外から入ってくる人は教育に関心があると思う。学校に対する市の考え方をPRし、人口増につなげて欲しい。

→公共施設を地域の中間点に集めるという意見は出ている。その際、建設用地が確保できるかという問題は残る。

・30年後に現在の線引き（市街化調整区域）がどうなるかは分からない。線引きが変われば、人口の移動は変わってくるのではないかと。藤沢南小学校には新しく学童保育室を建設している。（藤沢南小学校を統廃合する中で）市の施設整備は、一貫性がないように感じる。

- ・今後、市の人口が9万人に減っていくことが推計される中で、公共施設マネジメントの仕組みをどうしていくかということを考えている。この中で、子どもの教育を柱として考えたかどうかと以前提案させてもらった。効率化というのは、中央に集めて大規模化していくというのがこれまでの考え方であった。しかし、今後はその逆である。サービスを分散化して、生活の現場に近くする。地区内に3箇所ある公民館に行政機能をもたせることは当然だが、それ以外に小学校にも行政の機能をもたせていく。現場ごとに生活を支える機能にする。サービスの考え方を確立しておけば、人口変化に対して施設を適応していくことができる。それが大事だと思って今まで懇談会に参加してきた。
- 公共施設マネジメントは、ハードウェアの面だけではなく、サービスの見直しについて考えていかななくてはいけない。この部分が重要なことだと思う。どういう形が良いか答えは出ていないが、それぞれの地域で、施設の配置等も含めて必要なサービスをどこで提供するのか、配置の見直しを含めて検討していきたい。
- ・昔の「村」では、神社と学校は地域の拠点であった。中学校の統合は仕方ないが、土地の問題が許すのであれば、小学校は地区ごとに沢山あった方が良い。規模の問題もあるが、小学校に行政の機能を持たせて、地区の拠点にするイメージでできないかなと思う。以前、サテライトといったのは、子どもたちを学校に集めるのではなく、先生や市の職員が地域や施設に出向くという発想も大事であるということである。
- ・できるだけお金をかけることなく、どれだけの公共施設を維持していくことができるのか、そうすると今の学校をどこかにまとめていくという選択をしていかなければならない。学校区については、セレクト制にすると、学校ごとに児童・生徒数の偏りがでることも考えられるため、ある程度のしぼりは必要である。行きたい学校をある程度のしぼりの中で選択していく方向性があっていい。藤沢は幼小、小中、中中連携という面で素晴らしい地域になっている。こうした良いところを活かしてもらいたい。坂戸市に小中一貫校として城山学園がある。子どもたちが小学校に入学してから小中の連携は良いらしいが、9年間メンバーが変わらないということが欠点である。また、9年間PTAの役員になるのでやり手が中々見つからないようである。我が家の子どもたちは本来の図書館の設置目的とは異なるかもしれないが、図書館で勉強している。学校へ複合化した場合、勉強する場所としての機能が損なわれることはないのか。特に土・日曜日の対応を含めて検討する必要がある。
- 子どもの居場所づくりという視点で、図書館だけでなく勉強の場も含めて考える必要がある。現在、図書館がそういう学習の場になっていることは認識している。それが本館だけでいいのか、地区館（分館）にその機能を求めるのか。勉強の場は図書館が相応しいのか等の視点で考えていきたい。
- ・様々な良い意見が沢山出ているが、施設整備は一遍にはできないし、直ぐにできる

- ものできないものがある。年次計画のような計画はいつできるのか。
- 地区懇談会での意見を踏まえて、原案を作成する。現在の予定では今年度中に大きな枠組みの計画を策定したいと考えている。それに基づき個々の施設の整備計画を次の段階で作成していこうと考えている。中々、20年後、30年後に想定していたようになっていくかは分からないため、10年単位で見直しを図っていきたい。市民全ての意見を実現できる案を作成することはできないので、対案も示していく予定である。計画の中では、実際の整備が20年後であれば、それまでの間に検討していくという施設もある。今回は、大きな枠組みとなる計画としていきたい。
- ・計画ができれば、委員に配布してもらえるのか。
- 原案がまとまった段階で、委員の皆さんに郵送してご覧をいただきたい。また、それに対して意見があればお寄せいただき、その後一般市民を対象に説明会やパブリックコメントを開催したい。
- ・近所の方は20代から30代後半が多い。藤沢北小学校に坂を登って通っているので、小学1年生には辛い。不便な場所に引っ越してきたという声を聞いた。学校の配置や学区は、児童・生徒数のバランスを保ちながら検討すると思うが、今後学校の統廃合があるということを知らない人もいるので、現場の声を聞いて欲しい。施設を利用している人は残して欲しいと言うし、利用しない人は無くても良いという考え方になる。このような傾向はやむを得ないとも思うが、健康長寿を目的としている体育協会の立場としては、地区体育館を残していただきたい。
 - ・人口が減っていくのは分かるが、テレビで取り上げてもらえるような魅力があるまちということで、人口を増やすことも考えながら、小中一貫教育を超える何かに取り組みでもらいたい。限られた財政の中でやらなければならないことは理解するが、そういうことも含めて20年、30年先を考えていかななくてはいけない。
- 人口減少対策や、まちの魅力という意見は、多くの方から意見をいただいている。施設というハードウェア的な部分だけではなく、ソフトウェアも含めての魅力づくりを考えていきたい。ソフトウェアの魅力を活かすためにハードウェアをどう整備していくかといった視点も必要である。
- ・行政には、収益をもたらす部署はあるのか。行政は収益を上げてはいけないのか。
- 収益の概念に違いがあるかもしれないが、例えば税金を増やすために企業誘致を行うことや、移住を促進することなど、それぞれの部署で行っている。何かを販売して収益を出すことや、施設を何でも有料にして収益を上げるというのは難しい。
- ・公民館に売店機能があったら良い。例えば、コンビニエンスストア機能も一部取り入れれば活性化できるのではないかと。行政だけでサービス提供するのではなく、民間の活力を使って収益を上げれば、価値があると思う。発想の転換も必要である。
- 公共施設を広告事業の掲載の場として提供することや、民間のコンビニエンスストアに入ってもらい賃貸収入を得ることなどの取組みは各自自治体で始まっている。是

非、参考にしていきたい。

- ・老人憩いの家については自治会に譲渡を検討しているのか。
- 実際、自治会と共用で使われている施設もあり、老人会の利用よりも自治会の使用が多い場合もある。施設は、老人会で使っていただくのが前提で、使わなくなった時に地域の要望があれば自治会への譲渡も考えるといった意味合いである。
- ・地域によって考え方がずいぶん違うと思う。公民館がある場合、集会所（自治会館）を自分で開けて、暖房を入れ、机を並べてやるよりは、市が管理している公民館の方が使いやすい。
 - ・藤沢地区で長生会が9つある。このうち、2つは自治会と一緒にやっている。先を見据えると自治会と一緒に運営していった方が良いと思う。
 - ・老人会で一番困っているのは建物ではなく、人である。会員の減少はあっても増加はほとんどない。老人憩いの家をどう存続させるかの前に、人の数をどう確保するかが先である。現在は、自治会に協力をしてもらい成立している。
 - ・区によっては老人会を知らないところがある。PRの方法や、高齢者になって、自然に入会できるような仕組みを考えていかないといけない。
 - ・9地区あるうち、藤沢第一地区だけ老人憩いの家がないため、組合の事務所を借りるなどして、会議や新年会、忘年会、懇談会等を行っている。藤の台公民館がなくなったら本当に何もできなくなる。
- 実態として伺っておきたい。
- ・公会堂や自治会館は各自治会の所有なのか。市として、修繕など財政的な支援をしていないのか。施設の30年、40年後を考えると、ほとんど老朽化して、地震がくると崩れてしまう。老人憩いの家も同様なことが言える。自治会に譲渡となると、自治会の負担も大変なことになると思う。8区は建て替えるための資金を貯めているが、自治会では対処できないのではないかと思う。市の援助がないと厳しい。
- 自治会の集会所については補助の仕組みがあるので、所管課である自治文化課に申請をしてもらい対応できると思う。
- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略の中に、「元気なこどもが育つまち」を掲げているが、この通りに実施してもらえれば良いと思う。